

寄稿

お世話になった故人を偲んで



白川 宏

私は企業内技術士時代（1974年）よりこの会にお世話になり、42年の歳月が過ぎました。多くの先輩の指導もあり独立し、今日に至っている。亡くなられた先輩を偲んで記憶をたどりながら当時の思い出をまとめました。（亡くなられた年月が不明の方もおられるので、アイウエオ順に記載しました。）

① 井上祐夫先輩

1952年に事務用機器、スチール家具の(株)岡村製作所に入社され、1959年技術士資格を取得された大先輩でもある。会合には欠席がちでしたが、見学会・懇親会にはよく参加されていた。

八王子北野台に住まれて趣味の絵画は油彩から水彩・パステルと巡り再び油彩に戻ったとのこと。

奥様から「井上祐夫画集（2001年）」を戴いたので当会40周年記念会報に「地元風景画」を載せさせていただいた。

② 小笠原政治先輩

技術士の資格を取得されてから国会図書館によく通われていた。小生も時折同席したが、文献抽出のテクニックは素晴らしかった。その結果として「あと100年生きる本：世界一信用できる長寿データ集（講談社）」「世界一おもしろい科学の本（王様文庫）」など出版した。

東洋インキ製造（株）では食品包装用の容器やパッケージに用いられる特殊なグラビアインキの研究・開発に携わっていた。在籍中は米国の関連会社社長の職にも就いた。

当会が新橋にあった東工大懇和室で毎月会合があった時など帰りに新橋駅地下街での一杯も楽しかった。「環境と地域経済活性化を図るNPO法人を立ち上げた。またオーガニックコーデイナータ認定関係の資格も取得するなど努力家であった。

当会の要として、これから活躍されると思っていたが、早死されたのは惜しまれる。

③ 片寄弘之先輩（1982年～1985年の会長）

1983年の会長時に「技術士包装物流会」に会の名称を改案した。

(株)レンゴーに勤務時代にはブラジルなど南米などでの仕事も多く、当会の月例会ではネクタイ、バンドなどしゃれたスタイルで参加されていたのが印象に残っている。段ボールの製造から包装・輸送・保管に関しては専門で、包装資材に疎かった小生はよく質問し、教わった。

④ 神谷 弘先輩

容器の製造（製缶など）に関する品質管理については専門で、よく教わった。大和製缶勤務時には台湾の芳泉工業股份有限公司に長く勤務されていたので、2001年12月に当会で台湾研修旅行が行われた時、勤務されていた工場はじめ台北の名所案内をしていただいた。

神谷さんが当時、良く通っていたといわれた「餃子」の店ではたらふく食べたのを思い出した。

⑤ 木村年治先輩（1976年、1977年の会長）

会長時に包装文献研究会を提案され、米国MIL規格の翻訳を会員が分担してまとめ、例会時に発表した。当時は神田の学士会館での集会も多く、ビールを飲みながらの懇談は楽しかった。木村先輩は輸送工業包装（特に木材梱包、木箱の規格と活用についてなど）の専門でした。精密機器・電子機器包装のハンドブック編集幹事も務めていた。

長年、東京包装材料協同組合での包装学校「東京包装専門校」の講師をされており、数年前から小生を推薦していただき、以降小生が担当した。（昭和49年開校）

今年（2016年）他界されたが、17年前、軽井沢に住まいを移され、朝日を見て、碓氷峠を眺めていると江戸時代を想像する」と言われていた。四季折々励ましの便りを戴いたのが未だ心に刻まれ、昨年の年賀状では、私の信条「人生は賭けだ、確かなものはほとんどない、いつも先が分からず突進してきた」と書かれていた。

*MIL規格のSTD-810「USA国防総省で設定したMIL仕様書、MIL標準などから包装梱包に関する記事を仲間で翻訳し、発表した。

⑤ 桑 靖彦先輩（1974年～75年会長）

(株) 藤森工業時代、役員として活躍され、小生は包装材料の物性など疎かったのでよく教わり、仕事面に役立たせていただいた。

包装設計のための防水・防湿評価・試験方法などわかりやすく教わり、1950年代では「包装材料としての適応性」「包装材料とプラスチック」の専門書を出筆された。

毎年いただいていた年賀状では季節の花のスケッチは記憶に残っている。

⑥ 柴崎久市先輩

昨年(2015年)他界されたが、当会では研究部会の要となって活躍された。当初は横須賀に住まわれていたが、伊豆高原に転居されても上京され出席されていた。

東洋製罐を退社された後、数々のセンサーを研究され、仕事面に活用された。特に「りんごの密限定チェッカー」を開発され、装置は青森、長野の農協に納入されていた。ネーミングの「蜜入りセンサー」は登録商標を取得されていた。

十数年前から(社)包装機械工業会の技術委員として包装機械の安全性の指導に携わっていたので仕事面で一緒することが多かった。包装展「ジャパンパック」でも機器を出品され、盛況で関心度が高かった。

趣味は天体観測、アマチュア無線と多趣味でもあり、器用な方だった。

「ある時、猫を飼われており、猫の外出のため、勝手口に猫専用の出入り口を設け、センサーをつけ、猫の首輪に発信センサーをつけて自由に出這入りできるようにした」などアイデアマンでもあった。

長年入院されており、よく本人の病状メールを戴きました。「小生、各種治療薬を服用していて、まるでモルモットです。病院に協力しています。」とユーモアたっぷりの交信でしたが、本人は相当苦しかったと思う。

⑦ 堤 陽太郎先輩

東洋製罐(株)では役員として活躍し、レトルト装置の開発に力を注いだ方であった。柴崎さんの上司だったが、当会の出席率は悪く時折顔を出す程度だったが、小生は軟包装の無菌包装に携わっていた関係でよく指導を受けた。

現在、多くのレトルト食品が保存食品として家庭で利用されているが、装置開発当時は苦労されたと聞いている。小生会長時代に他界された。

⑧ 福岡和雄先輩

福岡さんは会員ではないが、包装分野では産工試出身の重鎮である。特に技術士試験制度発足時に包装分野の導入に力を尽くされ、私たちが資格を得た原点でもある。

包装技術協会にも籍を置かれ、包装業界発展のため力を注いだ人でもある。長年包装関係への尽力で「勲四等端宝賞」を授与されている。

晩年には千葉県にあるドイツ村設立にも携わったと聞いている。そんなこと

もあり、小生が勤めていたボッシュ包装機にも興味をもたれ、工場にもよく足を運ばれた。